

F 共通ルール オープンカテゴリー

1. 競技ルール

WRO は WRO 運営委員会（これ以降「委員会」とする）により構成され、本競技会中のみ適用される。

2. 参加資格とチーム構成

2.1. 年齢 — セクション C「年齢の定義」参照

2.2. 競技会は3つの年齢別グループでそれぞれ行われる。すなわち、小学生、中学生、高校生（共通ルール3「年齢の定義」参照）

2.3. チーム構成 — セクション D「チームの定義」参照

2.4. コーチ — セクション E「コーチ」参照

2.5. 参加チームは WRO 競技の他のカテゴリーには出場できない。

3. 材料

3.1. 各チームに用意されるブースのサイズは、 $2\text{m} \times 2\text{m} \times 2\text{m}$ である。（各チームはブース内に3面の垂直な展示面が与えられる。それぞれ $2\text{m} \times 2\text{m}$ もしくは可能な限りこれに近い。）

3.2. 各チームの展示物の全ての要素は、割当の $2\text{m} \times 2\text{m} \times 2\text{m}$ のブースエリアの中に収まっていること。チームのメンバーはプレゼンテーション中はこのエリアを出てもよいが、審判からの要請がなければ、ロボットや他の展示物は割当エリア内に収まっていること。

3.3. 各チームはオプションでテーブルが用意される。テーブルのサイズは $120\text{cm} \times 60\text{cm}$ （もしくは可能な限りこれに近い）。テーブルのサイズは各チーム共通である。テーブルはチームに割り当てられた $2\text{m} \times 2\text{m}$ の床スペースの中に置かれていること。各チームはブースにイス4つが用意される。

4. ロボットの規定

4.1. レゴ®部品と他の材料との割合に制限はない。

4.2. すべてのロボットは RCX または NXT となんらかのソフトウェアで制御されていること。

4.3. ロボットは事前に組み立てられており、プログラムも用意されていてよい。

5. 競技

5.1. オープンカテゴリーチームは次の過程をおこなうこと。

5.1.1. 最終組み立てと試験運転。

5.1.2. ブース準備（ポスター掲示などを含む）。

5.1.3. ルール遵守確認の事前検査。

5.1.4. 最終準備時間（ルール遵守を確認のこと）。

- 5.1.5. 審判へのデモンストレーションとプレゼンテーション（審判からの質応答を含む）
及び一般の観客に対するデモンストレーションとプレゼンテーション
- 5.2. レジストレーションの際に、各チームはロボットに何ができるか、ロボットがどのように独自性を持つか、テーマをどのように理解したかを、字や図でまとめたレポートをデジタルデータで提出すること。レポートには絵・図・異なる角度からの写真やプログラムの例を含む視覚的説明を含むこと。レポートのコピーを審査の際に紙で審判に手渡すこと。
- 5.3. レジストレーションの際に、各チームはロボットの動きを示すビデオ（最大2分間）を提出すること。このビデオは必須であるが、得点にはならない。しかし審判が公式な質問等をするためにロボットとその動きを把握することに使われる。
- 5.4. 各チームは、120cm x 90cm以上のポスター1枚以上でブースに貼ること。ポスターはロボットのプロジェクトを観客に紹介するものであること。

6. プレゼンテーション

- 6.1. 各チームの飾り付けは、所定の時間内に完成し、審判と一般の観客へのプレゼンテーションの準備を終えていること。（締め切り時間は、競技一ヶ月前に組織委員より提示される。WRO世界大会では、この締め切りはオープニングセレモニー終了と同時である。）
- 6.2. 各チームはいつでも一般の観客や審判にプレゼンテーションできるようにするため、競技時間中はチームのブース内に必ずいること。各チームは審査開始10分前の知らせを受ける。）
- 6.3. 審査は3つの年齢グループで実施される。すなわち、小学生・中学生・高校生。セクション3「年齢の定義」参照。
- 6.4. 各チームは約10分の審査時間を持つ。：5分の説明とロボットデモンストレーション。2～5分の審判からの質疑応答。

7. カテゴリー別審査基準（最高点 = 200点）

7.1. ビデオプレゼンテーション（あり/なし）

期限内の提出。

ロボット制作の目的、デザイン性、操作を分かりやすく審判に明示している。

プレゼンテーションの質。

7.2. 説得力ある説明（10点）

説得力のある説明であること。自分たちのロボットが「生活の向上」をもたらすと考える理由について。

この説明は、レポートに書かれていること。かつ/または口頭でのプレゼンテーションで示されること。

7.3. レポート（40点）

競技前にデジタルデータで英語でレポートが指示通りに提出されている。(あり/なし)

紙でプレゼンテーション中に審査員にレポートが提出される。(5点)

上手な英語で最大1500語で書かれている。(5点)

レポートは、ロボットによる解決策を生み出すまでに、チームが経験した計画の過程の概略を述べていること。チームメンバーとコーチの貢献度も述べること。(10点)

競技ルールにより、レポートはロボットを視覚的に紹介していること。レポートは作品のコンセプトとテーマの理解度を明確に伝えるとともに、写真・絵・図で描かれていること。レポートはロボットが何ができるのか、ロボットがいかに独創的であるかをまとめてあること。(15点)

レポートの質(5点)

7.4. プレゼンテーション(50点)

口頭発表およびロボットデモンストレーション(20点)

チームスピリット及び意気込み(エネルギー)(10点)

ブースとチームの全体的外観(10点)

ポスター使用とその質(10点)

7.5. ロボットの技術的デザイン(50点)

技術的に優れている。

安定した構造。

7.6. ロボットの創造的デザイン(50点)

創造的外観。

独創性、複雑さ、インタラクティブな動き

7.7. ペナルティー

RCX または NXT 不使用。(100点)

ポスターなし。(プレゼンテーション点より最大30点マイナス)

レポートなし。(レポート点なし)

展示の失敗または審査に準備が間に合わない。(・50点)

展示エリアとブース使用に関してルール遵守の欠如(警告がなされたが無視の場合)
(・100点および失格の可能性あり)